

宮農だより

金沢営農協議会
J A 金沢市
石川県農業共済組合

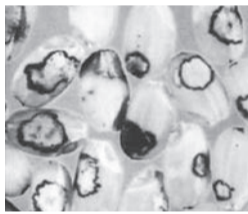
斑点米カメムシ類の防除対策

① カメムシ防除スケジュールと斑点米による影響について

シラホシカメムシ類、飛翔性カメムシ類の本田侵入盛期（予想、普通期移植の場合）

	7月											8月																							
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
ゆめみづほ	出穂時期																																		
コシヒカリ																																			
ひやくまん穀 晩期コシヒカリ																																			

いずれの品種も出穂7～10日後に防除を実施し、その一週間後にも防除を行う。
※防除の方法や薬剤は、宮農だより第5号を参照ください。



斑点米

カメムシに吸汁されると左図のような斑点米が発生し、落等の原因になります。
また乳白等が多いロットに斑点米が同時に多発すると、色選でも一等調製できない場合があります。

② 斑点米カメムシ類の特徴

カメムシ調査捕獲 トップ3

1位

アカスジカスミカメ

アカスジカスミカメ
飛翔性カメムシで、体は黄緑色で橙赤色の縦条が特徴。稲穂の割れ羽が発生すると吸汁加害する。

2位

アカヒゲホソミドリカスミカメ

アカヒゲホソミドリカスミカメ
飛翔性カメムシで、体色は緑、触角が淡紅色。稲の出穂に反応して水田に侵入、籾を吸汁加害する。

3位

トゲシラホシカメムシ

トゲシラホシカメムシ
歩行性カメムシで、体色は淡褐色で黒点特徴。8月上旬に稲穂に集まって加害する。

急増!

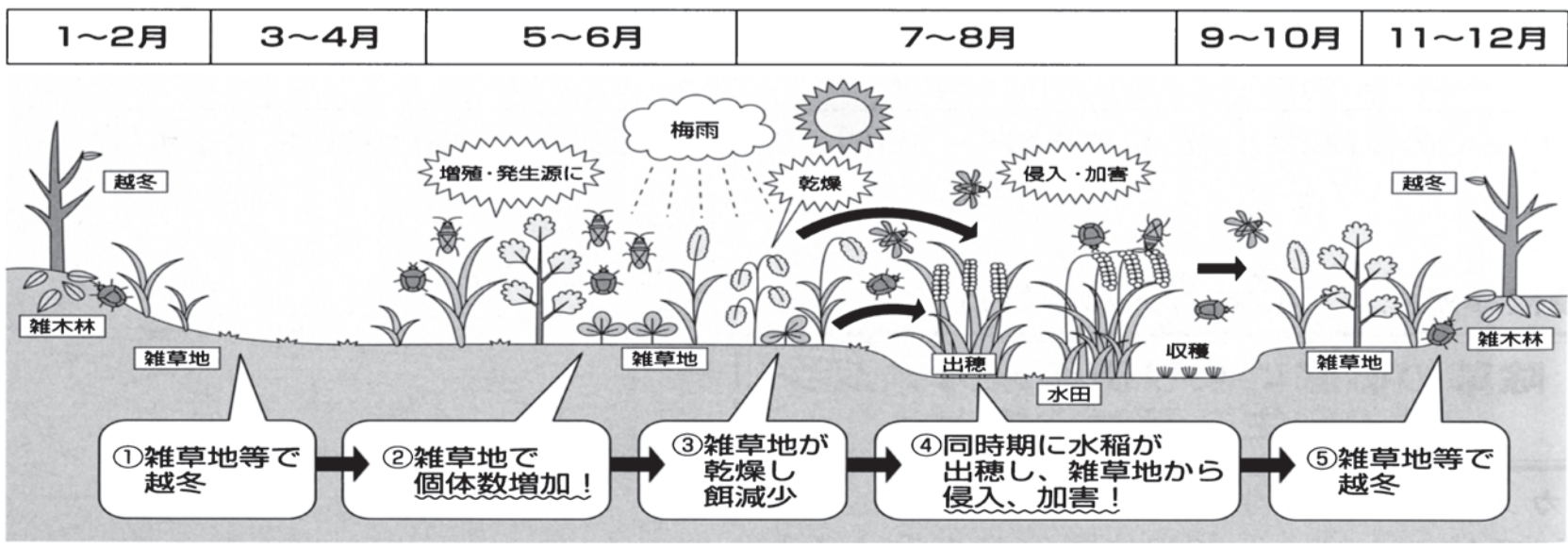
ホソハリカメムシ・クモヘリカメムシ

大型の飛翔性カメムシで生育期間が長いため、晩植栽培や晩性品種が集中加害を受けやすい。

ホソハリカメムシ クモヘリカメムシ

カメムシ類は、一般的に植物の種子を吸汁しながら、雑草地や水田等を移動しています。稲の穂が出ていない**7月上旬頃**までは、雑草地に生息して数を増やし、稲の出穂期以降は水田へ侵入して斑点米を発生させます。

斑点米カメムシ類の生活史



今後は、胴割粒、乳白粒や褐色粒の発生防止に向け、登熟期間の飽水管理と適期収穫でどんな天候にも対応できる稲作管理に努めましょう！

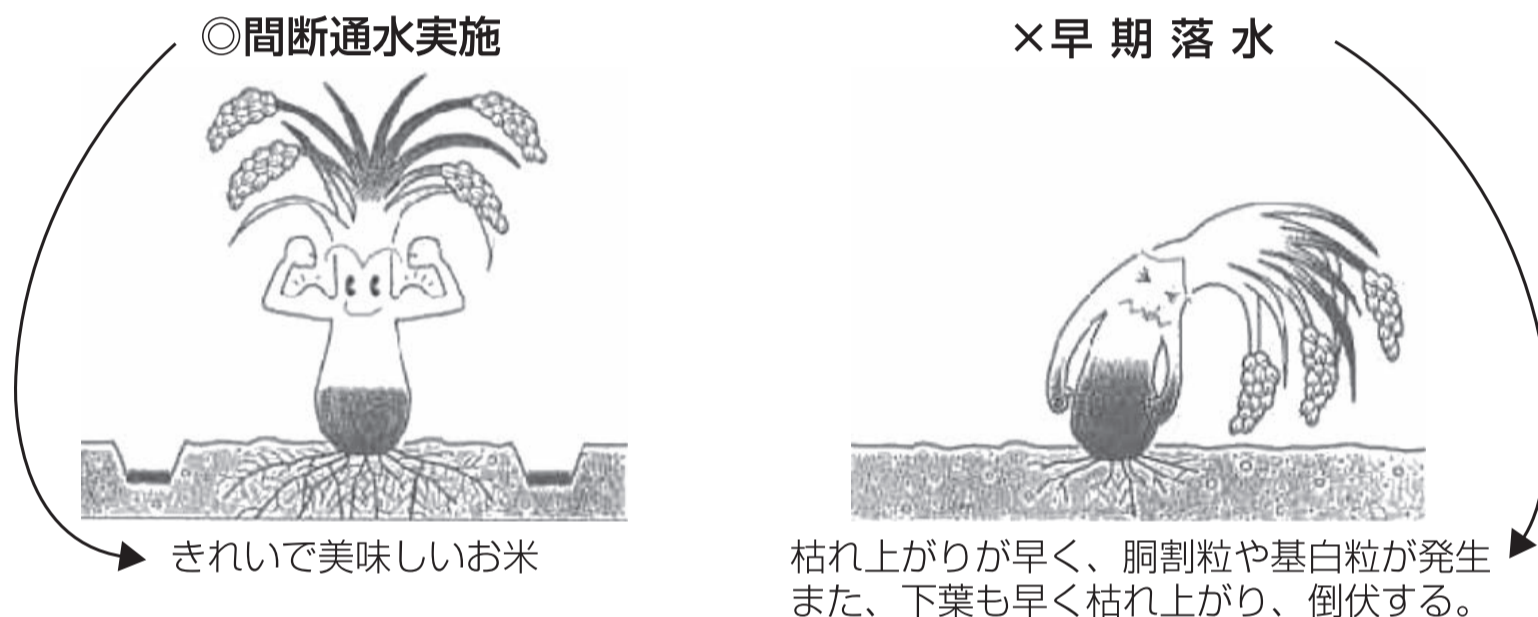
刈取りまでの水管理

1 飽水管理の徹底

- ◎こまめに通水して、常に土壤に水分を与え、乾き過ぎないようにする。
- ・気温の高い日が続くので、日中の湛水を避け、夕方から通水して根の機能低下を防ぐ。
- ・台風やフェーン現象などの強風時には一時的に通水（湛水）し、風がおさまったら速やかに排水する。

2 通水期間の延長 ー早すぎる落水は、収量・品質の低下につながりますー

刈取りの5日前まで間断通水（飽水管理）を続ける。



刈取り時期の目安

適期収穫に努め、刈遅れによる胴割粒や褐色粒の発生を防ぎましょう。

1 籾の黄化率で判断

- 1 穂の全籾数の80～90%が黄変したとき。
- 高温年：収穫開始80%、収穫適期85%
 - 平年：収穫開始85%、収穫適期90%

2 出穂後の日数での判断

ゆめみづほ	出穂後34～38日程度
コシヒカリ	出穂後37～42日程度
ひやくまん穀	出穂後40～45日程度

☆刈取り適期の穂



〈刈取り適期の目安〉
籾の黄化率が85～90%になった頃

★ 畦畔等の除草は、収穫直前まで行わないこと！ ★

うまい・きれい金沢産米づくり運動実践中！